Akita University

開かれた学校づくりにおけるシティズンシップ教育の研究†
ー秋田の高校生徒会・クラブ活動の分析からー

田近　　峻*
秋田大学大学院教育学研究科
佐藤　修司・浦野　　弘・小池　孝範**
秋田大学教育文化学部

本稿の目的は，開かれた学校づくりにおけるシティズンシップ教育の意義について考察していくことである．シティズンシップ教育は近年，生徒が将来，市民としての十分な役割を果たせるようにするために学校教育などで導入されており，代表的な取り組みとしてボランティア活動等の体験活動がある．秋田県立秋田西高等学校と秋田県立湯沢翔北高等学校の二つの学校において，生徒会・クラブ活動に取り組んでいる生徒に焦点を当て，それらの活動に関する調査を行った．生徒は生徒会･クラブ活動を通して，コミュニケーション能力，問題解決能力，責任感等の社会で必要な能力を獲得していた．

キーワード：開かれた学校づくり，シティズンシップ教育，生徒会，クラブ活動

Ⅰ　問題と目的

文部科学省（2006）は，地域に開かれた信頼される学校づくりの実践の中で，保護者や地域住民の声を反映させていく取り組みを推進していくことの重要性を指摘している．例えば学校評議員制度や学校運営協議会制度では，校長や教育委員会が選んだ第三者が学校運営に参加して，学校が保護者や地域住民と連携しながら質の高い教育を目指している．

文部科学省が示している開かれた学校づくりの中心的な目的は，あくまで学校の信頼（評価）や教育の質を高めるために学校・家庭・地域が連携することであって，生徒の成長を願い生徒の主体的な学びを促進させるために体験活動等の取り組みを積極的に行うといったことは副次的な目的にとどまる．このような記述は，その後の文部科学省（2015）においては，地域と共にある学校という立場からのあり方が示されているが，文部科学省（2006）と同様に学校の信頼，評価，教育の質に主眼が置かれており，生徒の個人の成長の「変容」をうまく捉えきれていない面も存在していると思われる．学校全体の質が高まったとしても生徒の変化が見られないならば，それらの取り組みは十分な成果をあげたとは言えないだろう．したがって，今後はこうした学校全体の質の観点に加えて，生徒の成長という視点からも開かれた学校づくりを推し進めていくことが重要であると考えられる．

宮下（2013）は，長野県辰野高等学校（以下，辰野高校と呼ぶ）の「三者協議会」による民主的学校作りの例から，生徒参加を軸とする「参加と共同の学校づくり」の意義について説明している．それによると，「よりよい学校づくり」をしていくためには生徒が成長・発達していく必要があり，その成長・発達とは，三者協議会（生徒・父母・教職員の三者）などによる生徒の学校運営への参加によって主権者意識を育て，「フォーラム」（三者と地域住民の参加）などによって，生徒が地域住民と話し合い，まちづ

2016年１月８日受理
† Study of the Citizenship Education in Schools Open to the Community: The Analyses on the Student Council and the Club Activity done in two High Schools in Akita Prefecture
*Shun Tadika, Graduate School of Education, Akita University
**Shuji Sato, Hiroshi Urano and Takanori Koike, Faculty of Education and Human Studies, Akita University

Akita University

くりに参加することによってシティズンシップを向上させていくことだとしている．辰野高校では，生徒を学校づくりの当事者とすることで，生徒が将来を担う市民として成長するための機会を「三者協議会」という形で生徒に提供している．

また，岩本（2014）は，学校，生徒，地元行政，地域住民，各種団体等が協働し，魅力ある高校づくりに挑戦している島根県立隠岐島前高等学校（以下，隠岐島前高校と呼ぶ）の取り組みを報告している．それによると，隠岐島前高校では，子どもが「行きたい」，親が「行かせたい」，地域住民が「この学校を活かしていきたい」と思うような魅力ある人づくりと魅力ある地域づくりを目指す「島前高校魅力化プロジェクト」を開始し，生徒たちは地域の課題を解決し新しい価値を生み出している．この取り組みでは，「地域の人も先生」というコンセプトのもと，生徒たちがまちづくりや商品開発を実際に行うことで，社会で必要なコミュニケーション能力を身につけていくこともねらいとしている．

この２校の取り組みでは，単に生徒に知識を与えるだけではなく，生徒が社会に出たときに必要となってくるコミュニケーション能力や課題解決能力を身に付けることを目指している．

こうした取り組みに見られるような，生徒がボランティア活動等の体験活動に従事することを通して，地域貢献だけではなく，生徒自身の成長をねらいとする教育は，シティズンシップ教育と言うことができるだろう．シティズンシップ教育は，イギリス等の欧米を中心に取り組まれている教育であり，この教育において，「学校を開く」ことのねらいは，家庭，地域，学校，企業，団体など，様々な場での学習機会や参画機会の保障を通じて，生徒が社会に関わる際に，必要な能力を身に付けることにある．

文部科学省は開かれた学校づくりを進める中で，シティズンシップ教育に関する具体的な施策等を出しているわけではない．文部科学省（2013）では，地域で学校を支援する仕組みづくりを促進し，子供たちの学びを支援するだけでなく，地域住民の生涯学習・自己実現に資すると共に，活動を通じて地域のつながり・絆を強化し，地域の教育力の向上を図る必要性を述べている．

これは，学校と家庭と地域が「主体」となって教育活動を行うことを意味しており，学校支援地域本部等の新たな施策を通じてこの実現を目指している．しかし，生徒の成長という視点は，必ずしも中心とはなっていない．開かれた学校づくりを通して，生徒が主体となって地域の問題を考え，解決していく視点を重視し，そのことを通じて，生徒のシティズンシップを育成することが可能となると考える．

一方，シティズンシップ教育に関しては，経済産業省が，2006年に「シティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会」の報告書（経済産業省，2006）をまとめている．この報告書の中でシティズンシップは，「多様な価値観や文化で構成される社会において，個人が自己を守り，自己実現を図ると共に，よりよい社会の実現に寄与するという目的のために，社会の意思決定や運営の過程において，個人としての権利と義務を行使し，多様な関係者と積極的に（アクティブに）関わろうとする資質」と定義されている．

この定義をもとに，同報告書ではシティズンシップ教育に必要な要素として，①公的・共同的な活動（社会・文化活動），②政治活動，③経済活動の三つを挙げている．①は，学校や地域などにおける意思決定や活動の場に参画する活動等を指しており，②は，市民の自発性･主体性に基づき，政治的な運動･活動を行なうことである．また，③は，自分たちの志向と社会のニーズとのバランスを理解し，社会に関わる職業に就いて，生活に必要な収入を得ることを指している．

シティズンシップ教育が注目される契機は，英国において1997年に発足したトニー・ブレアを首相とする労働党政権が，ロンドン大学教授で政治学者のバーナード・クリックを委員長とするシティズンシップに関する諮問委員会（The Advisory Groupon Citizenship）を設置したことである．

同委員会は，1998年に最終報告書「学校でのシティズンシップ教育と民主主義の教授（通称：クリック・レポート）」を出している．そこでは，学校でのシティズンシップ教育の目的として，①「教室内外で社会的・道徳的に責任のある行動を学習する」こと，②「コミュニティ参加とコミュニティに対する奉仕を通じた学習で自分のコミュニティの生活と関心ごとについて学習し，有益な形で参加できるようにする」こと，③「知識，技能，価値を通じて公的な生活について学習し，公的な生活において自分たちを役立てる方法を学ぶ」ことの３点を挙げている．

クリックは後に，シティズンシップ教育に必要な

要素として，①社会的道徳的責任，②地域コミュニティへの参加の三つの視点を挙げているが（クリック2011），この三つは「クリック・レポート」における三つの目的と基本的に対応しており（ただし，③政治的リテラシーについては，先に述べた「政治活動」より広義で用いている），以下では，この３点をもとに考察していきたい．

クリックが考えるシティズンシップ教育は，英国において2002年から実施され，一定の成果を上げている．そこで，本稿では日本の学校教育でもシティズンシップ教育を行うことが可能であるのか，生徒のシティズンシップを育む上でいかなる効果があると言えるのかについて検討する．

具体的には，生徒が主体的に取り組んだ体験活動の具体的事例を取り上げながら，クリックのシティズンシップ教育の視点から分析し，生徒のシティズンシップ の成長を考察する．

Ⅱ　調査の方法

現在，地域と連携し，生徒の主体的な成長を促そうとする体験活動は，いくつかの学校で実施されているが，本稿では秋田県立秋田西高等学校（以下，秋田西高校と呼ぶ）及び秋田県立湯沢翔北高等学校（以下，湯沢翔北高校と呼ぶ）の２校を対象に分析をする．この２校を選定した理由は，①２校がボランティア等の体験活動を重視していること，②生徒が地域貢献のために他校と比べて特徴的な活動を行っていることの２点である．

具体的な調査内容としては，取り組みについての把握，並びに生徒会・クラブ活動に所属している生徒，教員に対して聞き取り調査である．聞き取り調査は2015年度に以下の日程で実施した．

秋田西高校：

10月28日　生徒会執行部３名への聞き取り
11月６日　生徒会顧問への聞き取り
11月20日　校長への聞き取り

湯沢翔北高校：

２月12日　生徒会顧問への聞き取り
11月17日　商業クラブの生徒４名への聞き取り

Ⅲ　２校の実践事例とその結果

1．秋田西高校における調査の結果

秋田西高校では，2004年度から学校の教職員と生徒会，地域住民等が集まり，地域や学校を良くするためにお互いに議論するための地域懇談会が開かれている．以前からこの地域懇談会の席上において，秋田西高校生徒の自転車のマナー等が芳しくなく，秋田西高校がある追分地区の安全面を不安視する意見が，地域住民から出されていた．そこで，2014年度から2015年度に渡って，生徒会執行部（以後，西高生とする）は全校に呼びかけ，追分地区の安全を改善していく活動に積極的に取り組んでいる．その成果として，秋田西高校は2015年度の春に追分地区の警察署から自転車安全モデル校に選ばれている（秋田県立秋田西高等学校PTA事務局，2015）．

ここでは，その背景と実践事例を示すと共に，その成果についても記述する．

(1)　学校教育目標と実践事例　追分地区安全改善活動の位置づけ

秋田西高校では，目指す学校像として，

①生徒一人一人の進路実現の達成に尽くす学校
②地域と共に歩む学校

の二つを挙げている．とりわけ，②に関しては，地域住民との信頼関係の構築することを目指し，

ｱ)地域住民の活力となり，希望となるような全国に通じる部活動を育てる
ｲ)生徒と教職員に地域住民，教育振興会や後援会，PTA，学校評議員，周辺公共機関等を加えた拡大地域懇談会を通して，創造的学校文化を作り上げる
ｳ)地域の伝統文化を学ぶ体験学習を取り入れ，文化祭等の学校行事を通して地域文化の特色を内外に発信していく

を掲げている．それを実現するために，次のような地域に根ざした体験活動を重視している．

ｱ)近隣の小中学校や特別支援学校での部活動指導等を通し，生徒同士の交流を深め，地域のリーダーを育成し，校種間の協調関係を構築する
ｲ)生徒会を中心に，地域の行事に積極的に参加することで，地域に元気を与える
ｳ)生徒指導を通して地域から信頼されるさわやかで溌剌とした高校生を育て，地域力を活かしたキャリア教育を推進すること

これらの理念のもとに，生徒会は自ら以下のような目標を掲げている．

ｱ)誇りを持てる学校をつくろう
ｱ)-1「豊かな心」「調和の姿」「創造の道」を体現し，

Akita University

西高生であることに誇りを持てる生活をしよう

ｱ)-2 生徒憲章を見つめ直し，自律的で充実した高校生活を目指そう

ｲ)生徒の意見を尊重し，生徒活動を充実させよう

ｲ)-1 生徒一人一人が気持ちの良い学校生活が送れるよう，生徒会委員会は積極的に活動しよう

ｲ)-2 執行部と委員会の連携を強めよう

ｳ)おもてなしの心を忘れず，地域に貢献しよう

ｳ)-1 地域の方へ感謝の気持ちを還元しよう

ｳ)-2 ボランティア活動に一生懸命取り組もう

本稿で取り上げた西高生が取り組んだ「追分地区安全改善活動」は，生徒会の目標ｳ)-2 に当てはまるものである．

⑵　生徒会の執行部を中心とした活動：地域懇談会

地域との信頼を構築していくための方策として特徴的なものが，生徒会活動の一環として実施している地域懇談会である．

この懇談会は，学校の教職員と生徒会，地域住民等が集まり，地域あるいは学校を良くするためにお互いに議論するというものであり，2004年度から始まったものである．2015年度は10月16日金曜日の放課後に開催された．2015年度の懇談会には，町内会長，地域の学校職員，警察職員，防犯・交通安全協会関係者など23名参加し，学校側からは，校長をはじめとする教職員，生徒会執行部，各部活動・同好会の代表者が参加した．懇談会は以下のような内容であった．

まず，校長から，生徒を中心としての地域との交流の場となること，また，公職選挙法の改正により，18歳以上の国民に選挙権が与えられ，高校生も地域活動への積極的な参加が期待される時代になったことを踏まえながら，この会を有意義なものにしたいという旨のあいさつがあった．その後は，懇談会は生徒会執行部によって進められた．生徒会活動説明，各部活動等紹介，西高生からの意見，西高生が地域住民と行いたいイベントと続き，昨年度に地域住民から出された意見が現在どのような状態になっているかについての説明が行われた．その後，地域住民と西高生による情報交換が行われ，地域住民から，西高生の自転車マナー向上を評価する声が挙がった．

⑶　追分地区防犯・安全交通マップ

地域住民から評価を得ているものの一つに，西高生の自転車のマナー等の向上がある．西高生のマナーや規範意識を向上させた要因の一つとして，生徒会が作成した追分地区防犯・安全マップの作成のプロセスにあったと考える．そこで，以下にその概要を示す．

この時に作成した追分地区防犯・安全マップを，**図１**に示す．これは秋田西高校がある追分地区周辺で，見通しの悪い場所や交差点がある場所等，安全に通行するために配慮すべき地点に，コメントを付している点が普通の地図と異なっている．地図自体はコンパクトにまとめられており，図もカラーで書かれてあるので，高齢者や子どもが見てもわかりやすいのが特徴である．

追分地区
防犯・交通安全マップ
小さな道が多く
全体的に見通しが悪いので
車も自転車も人も注意して！
① 牛坂踏切付近
踏切から7号線へは下り坂。横断歩道があるので自転車も乗りスピードを出さないように！7号線を通る車はスピードが出ているので飛び出さないように！
長沼球場の下り坂は大きく見通しの悪いT字路があるので出てには十分注意！
② 7号線への小道
幅く見通しも悪い。接触に注意。7号線への出口は狭いあたりでも見通しが悪い。自転車や車で出るときは十分注意を！
③ おちち小屋の7号線へ出る小道
曲り道物がありとても見にくい。歩行者・自転車は気づかずに出て注意。車は歩かなくきに十分注意して。
④ 追分駅前の7号線横断歩道
斜め横断禁止！特にナイス横のの道から出てその歩き斜め横断するのはとても危険。
⑤ 追分駅前の通り
自転車・歩行者とも広がらないで！特に朝夕の混雑時。西高生は気をつけよう。自転車は、左側通行
⑥ ナイス前の横断歩道付近
混雑時（特に朝）車の間をぬって横断する人や自転車が多い。信号を守って横断歩道を渡ろう！車も気をつけて。
エレベーター付近や点字ブロックの上には駐輪しないで！
駐輪スペース
きれいに整頓して駐輪しましょう
ここに自転車を置かないで！車の出入りのじゃまになりますし、歩行にダメ！
⑦ ナイス横の小道
不審者に注意！！人の時はできるだけ他の道を通ろう。
⑧ 幼稚園前の道路
ここの辺りは歩道が狭くなっているので特に狭くなってからの通行は注意して。車は前に車道に出てくる自転車に注意して。
⑨ ナイス入口
車の出入りが多いので注意。家が多の駐車場から出る車から目が見にくいので、西高生は特に下校時注意。自転車は速度を落として。街道の車がなかなかとぎれず車がひにくいが、歩行者をよく見て。ちは路面がツルツルになるのでスリップしてお注意。
⑩ 幼稚園付近のY字路
とても見にくく交通量も多いので注意。低速へ出る車は必ず歩道で停止して左右確認を。歩行者・自転車も一時停止！前や方から自転車は左は右の方とぎれず無視に発進する車もあるので注意！
⑪ 道分小路～ローソン
特に朝、西高生は小学生を危険見日にあわせないように気をつけて自転車運転を！1列で、スピードを落として。
⑫ 点滅信号付近
車がくねくねしていて特に見通しが悪い。十分注意を。車はスピードを出さないで！
⑬ 石井歯科前
駐車場からバックで出てくる車に注意！車は必ず徐々に確認して。石井歯科医から大通に出てくる車に注意。
⑭ 教育センターへの交差点
多湖にマンホールの蓋がおいてあるので自転車通行注意。
⑮ 教育センター前
不審者に注意！道路脇の空き地に車をとめている不審者情報あり。
⑯ ローソン前・ファミマ前
車の出入りが多い。車・歩行者・自転車とも十分注意。不審者情報もあり。怪々な人が集まるので、暗くなってから十分注意して。
⑰ ポリテクセンター・ツルハ裏
特に夜が多くなっているので自転車は並列走行しないこと。
⑱ 西高入口
交通量が多く、交差点がきわめてとても危険。西高生は横斜め横断をしない！前道の車がなかなかとぎれずに出てくる車に注意して。ポリテク方面への道はせまいので歩行者が車と接触しないように注意。
⑲ 西高前の坂
西高生は車でに自転車のスピードを出さない。朝は広がらない。保育園の送迎の車や園児が通ります。
⑳ 大潟高校の交差点
この辺りは狭いし住宅が多く、子どもも車道。見通しが悪いので、車・自転車とも徐行して。
㉑ 西高裏の坂
坂を下る自転車と車との出会いがしらの事故に注意。坂道の車がバックで下りてくることもあるので注意。お互いに徐行、十分確認を！
㉒ ポリテクセンター東正門の交通点
見通しが悪く、小道から出てくる自転車から車が見えない。車の交通量も多いので注意。
㉓ 道分元重会館付近
付近の道路はまっすぐで見通しがよいため車はスピードを出しがちで、子どもや飛び出しがあるためのスピードを心がけて。
㉔ 道山前の通り
片側に歩道なし。交通量が多く車がスピードを出しがちなので注意して。できるだけ歩道のある側を歩こう。
㉕ 天南中入口（長沼側）
左右の見通しが悪いのでご注意。天南中生は坂を下るときにスピードをおさえて、一時停止をしよう。車もナ分注意。
㉖ 長沼球技場・球場周辺
車両は見通しが良いが、路上駐車の車があると見通しが悪くなるのでご注意。特に休日、野球の試合があるときなどは路上駐車が多いので気をつけて。
㉗ 天南中入口（長沼側）
生徒が通ります。天南中前の道路は細く、片側には歩道がないので、歩行者は歩道のある側を歩くように。
㉘ 長沼周辺
不審者情報あり。約りをするときは絶ムりに入らないこと。周りをパイクが見スピードで走っていることがあるので注意。
道路脇の駐輪場
自転車は1列で歩行者のじゃまにならないように。
ここは自転車置場
ポリテクセンター
ツルハ薬品
ファミリーマート
ローソン
ファミマ
石井歯科
みどりの学園教育センター
ロクマル公園
大潟高校
道分元重会館
秋田西高
道山
せまい
交通量多い
せまい
ここは自転車置場
ここは自転車置場
ここは自転車置場

Akita University

徒会執行部が作成した追分地区防犯･安全マップは，地域の安全に貢献し，秋田西高校は2015年度の春に追分地区の警察署から自転車安全モデル校に指定された．

⑷　取り組みの分析

追分地区防犯・交通安全マップの作成という取り組みを，前述のバーナード・クリック（2011）が示したシティズンシップ教育目標である，①社会的道徳的責任，②地域コミュニティへの参加，③政治的リテラシーの三つの視点をもとに分析する．

西高生は，まず普段の学校生活や地域懇談会等を通して，①と②を実践したといえる．

①の社会的・道徳的責任については，西高生は普段の学校生活で教師から社会的・道徳的に責任ある行動（ボランティア等の参加や地域懇談会での積極的な発言）をとるように学んでおり，西高生は天王みどり学園（秋田県立特別支援学校）でのボランティア等として実践している．また，今回取り上げた取り組みでは，地域懇談会での意見をもとに，「マナーの向上」のみならず，より積極的に，「防犯・交通安全マップ作成」という具体的で責任ある活動に具現化していった．こうした意味では，自分たちのマナーの向上だけにとどまらず，社会的・道徳的な責任についての生徒たちの成長がみとめられ，①の目標を達成したと考えられる．

また，②の地域コミュニティへの参加については，西高生はボランティア活動や地域懇談会等への積極的な参加を通して，地域住民から西高生が属する地域社会の暮らしや営みを学び，その追分地区の安全面において主体的に貢献していることから，②の目標も達成したと考えられる．

③の政治的リテラシーについて，クリック（2011）は，「生徒は，知識・技能，価値のいずれの面からも公的生活を学び，公的生活に影響を与えるにはどのようにすれば良いのかも学ぶ．そうした知識・技能・価値は政治的リテラシーと呼ばれている」と定義している．

西高生が行なってきた実践は，追分地区の交通面の安全が地元住民から不安視されている課題と，生徒自身の課題である「マナーの向上」を結びつけ，仲間と協力して追分地区安全・防犯マップを作成し，地域の課題に対する一つの解を「防犯･交通安全マップ」という形で示している．

クリックの視点から考えると，西高生が考案したマップは追分地区に住民の安全という観点から影響を与えており，西高生は，マップ制作に取り組む中で，「公的生活を学び，公的生活に影響を与えるにはどのようにすれば良いのか」を意識しているという点で，シティズンシップの向上が図られたといえるだろう．

西高生は自分たちで主体的に追分地区防犯・交通安全マップの作成に取り組み，これを完成させた．その契機となった地域懇談会は，生徒のシティズンシップの育成という観点から重要であると考えられる．

2.　湯沢翔北高校における調査の結果

秋田県内陸南部に位置する湯沢雄勝地区は，人口減少に歯止めがかからず，少子高齢化が一層加速し，地区中学校卒業者数は，2015年３月には601名，５年後の2020年３月には483名となり，500名を切ることが予測されている．湯沢翔北高校では，湯沢雄勝地区を若い世代でいかに活性化させていくことができるかを，課題として取り組んでいる．

湯沢翔北高校商業クラブの生徒たち（以後，翔北生とする）は，地熱を使った乾燥さくらんぼを開発することで湯沢市の活性化を試みている．ここでは，その商業クラブの活動実践事例と成果について記述する．

⑴　学校教育目標と実践事例　商業クラブ活動の位置づけ

湯沢翔北高校は，女子高校であった秋田県立湯沢北高等学校と商業と工業の専門高校である秋田県立湯沢商工高等学校を統合し，2011（平成23）年に開校した高校である．現在は，普通科，総合ビジネス科，工業技術科の３学科から構成されている．

湯沢翔北高校は，目指す生徒像として，

ｱ)人やものや自然を大切にし，まごころと思いやりの心で接することができる生徒

ｲ)学んだことや身に付けたことを生かし，新たなものを創り出す意欲に満ちた生徒

ｳ)考えたことを自ら具体的に行動に表すことができる生徒

ｴ)社会とのかかわりの中で大きな夢と高い志を持ち，主体的に人生を切り拓いていく生徒

ｵ)ふるさとを愛し，自らを見つめ，社会に貢献する生徒

Akita University

を挙げている．この生徒像を実現するための具体的な教育方針として，

ｱ)基本的生活習慣の確立を図ると共に，責任と協調を重んじ，礼儀正しく他を思いやる心を育み，社会に意欲的に貢献できる人間を育てる

ｲ)基礎・基本の指導を徹底し，自ら学び自ら考える主体的な学習態度を養い，学力の向上を図る

ｳ)体験的学習を通して一人一人の豊かな個性や能力を伸ばし，将来の社会的・職業的自立を目指した進路実現を図る

ｴ)商業，工業の教育の特色を生かし，地域との連携を図ることによって企業実習を導入するなど実践的な教育を行い，望ましい職業観・勤労観を育成する

が定められている．その中で，湯沢翔北高校では，特に職業的自立や望ましい職業観の育成等のキャリア教育に力を入れている．

2014年度の湯沢翔北高校におけるキャリア指導目標は「他者や社会と積極的に関わる体験を通して，自分を生かし主体的に生きていく力と持続可能な社会の担い手となる市民性を育てる」であった．このキャリア指導目標では直接的にふれられてはいないが，シティズンシップ教育の観点が含まれている．この目標に沿って湯沢翔北高校では，三つの学科やクラブ単位で様々な体験活動が行われている．例えば商業クラブでは，これまでも地域のイベントなどへの出店や地熱研究や湯沢市ジオパーク研究等を行なってきたが，2012年度からは，地熱を使った乾燥さくらんぼの商品開発を行い，地域に貢献できる人材の育成に努めている．以下では，この乾燥さくらんぼの商品開発を取り上げて，シティズンシップ教育の視点から検討する．

⑵　商業クラブの実践事例：乾燥さくらんぼの開発

現在，湯沢市は，少子高齢化や都市部への人口流出の影響で人口減少が進んでいる．翔北生は，地域の力が低下していることに危機感を持ち，湯沢市を活性化させていくためには「大きな行政，大きな企業，街には商店も多く，住民が多い街」を目指すのではなく，コンパクトではあるが機能的な街が必要ではないかと考え，地域の方など多方面からの協力を仰ぎながら解決策を考え，具体的に取り組んでいる．乾燥さくらんぼの商品開発もその取り組みの一つである．

翔北生は，顧問の先生を交えて2012年度に行われたミーティングの場で，市や学校，企業などが個別に活動するだけではなく，それぞれが得意とする分野に特化し，そして他の分野と結びついて良さを引き立てあうことが大事ではないかと見通しを出した．つまり，地域の中にある様々な特色を見つけ，それらを効果的に結びつけることができれば，もっと湯沢市の魅力を伝え，創ることが，湯沢市における地域活性化につながるのではないかと考えた．その具体的な取り組みとして，2012年度から取り組んでいる乾燥さくらんぼのビジネス展開についてここでは取り上げる．湯沢市では，これまでも地熱が多様な目的で使われてきたが，乾燥さくらんぼは，そうした地域の資源を活用した取り組みである．

その経緯は以下の通りである．翔北生は湯沢市三関地区のさくらんぼ農家から，「受粉樹として植えられているさくらんぼの加工品を作ることができないか」という相談を2012年度に受けた．しかし，調べてみると受粉樹のさくらんぼには同時に問題点も数多く存在することが判明した．例えば，多くの経費をかけて販売しても利益があまりでないという費用対効果の問題や，加工品をどのように作ればいいかわからない等の問題である．翔北生は，これらの問題点を解決するために，湯沢市皆瀬地熱農産加工所で地熱を利用して受粉樹のさくらんぼを加工し，乾燥さくらんぼを製造することにした．「お菓子のくらた」と協力しながらこの乾燥さくらんぼを利用した商品を何度も試作し，カップ入りのバターケーキ「ミッチェリーケーキ」を完成させた．このミッチェリーケーキの原料ともなっている乾燥さくらんぼを多く生産し，湯沢市を魅力的にする特産品として農家と協力しながら準備していくことになる（秋田県立湯沢翔北高等学校商業クラブ2014）．

この完成した乾燥さくらんぼは，秋田県内の各企業に試食してもらうことになり，結果的に６つの企業から乾燥さくらんぼを使ったお菓子や料理の試作品が提供された．例えば，翔北生と「お菓子のくらた」が協力して乾燥さくらんぼをアレンジし，ミッチェリーケーキを商品化したことは先に述べたが，農家の方からのアドバイスでさくらんぼをケーキの生地に練りこむのではなく，クリームに入れ，さくらんぼの味や食感を出そうとしたミッチェリーブッセが新たに商品開発された（秋田県立湯沢翔北高等学校商業クラブ，2014）．

乾燥さくらんぼは，湯沢市広報だけでなく，秋田

Akita University

表１　乾燥さくらんぼの商品開発に関するアンケート結果（秋田県立湯沢翔北高等学校商業クラブ，2014より）

1. 見た目・味・香り・食感などはどうでしたか.	
見た目	・ほのかに甘くていい　・さくらんぼとは分かりにくい　・美味しそうに見えない　・さくらんぼとは分かりにくい　・きれいではないけれど，お菓子に使う分には問題ない　・もっと赤いほうがいい
味	・ほどよい酸っぱさがいいと思う　・ナポレオンは酸味が強すぎる　・さくらんぼの甘くて可愛らしいイメージとは違う
香り	・さくらんぼの匂いがした　・あまりしない・あまり香りがしないので，使用時にリキュールなどが必要
食感	・少し固め　・セミドライが良い　・歯にくっつく　・やわらかい
2. 乾燥さくらんぼを食べてみた感想.	
・さくらんぼの味が凝縮してある ・程よい酸味があっておいしい ・酸味があるのでお菓子に合うと思った ・酸味があるので甘いケーキに入れると引き立ちそう ・ナポレオンは甘みが少ない ・セミドライくらいの乾燥状態のほうがさくらんぼらしさがでそう ・そのまま食べるとただ酸っぱいだけなので，何かに漬け込むといいかも ・食感がいまいち ・さくらんぼ本来の風味が抜けてしまっている	
3. 地熱や地熱加工食品を使った商品をどう思いますか.	
・有効活用ができていてとても良いと思う ・地域の活性化につながるので良いと思う ・湯沢市の特性を生かしていて良い ・素晴らしい資源活用だと思う ・地熱を利用した農作物を冬に出荷してほしい ・地元の資源や食材を使うことはとても良い ・電気や石油を使わずにコストを安くでき冬場にいろいろな野菜ができると思う ・ぜひやってほしい課題だといつも思っていた ・再生可能エネルギーの一つである地熱に関して興味があるのと同時に，それによって産業が生まれるのであれば，とても素晴らしいと思う ・さくらんぼについては製造する（企業）に工夫が必要 ・地元の地名にちなんだネーミングも良い着眼点だと思う	

魁新報等のマスコミにも取り上げられた．湯沢市の広報誌では，翔北生が乾燥さくらんぼ作りに取り組んでいる活動内容や写真を掲載し，また秋田魁新報では，湯沢翔北高校のこれまでの取り組みと乾燥さくらんぼについての紹介をしている．

この乾燥さくらんぼの商品開発にあたっては，秋田県内の菓子店46社に記述式のアンケートが行われており，**表１**のような結果を得ている．

翔北生は，このアンケートの結果について，以下のような分析を行っている．

> アンケートの結果はどの質問に対しても賛否両論で，味においても甘酸っぱくて良い，酸味が強すぎるというように意見が分かれる結果になりました．馴染みのない食材であるため，どのような状態で使うかを悩んだという意見もありましたが，ほとんどの企業から焼き菓子に合う，既存の菓子に利用可能という意見をいただきました．仕入れ値に関しては，いずれも私たちの製造原価よりも安い金額を希望されていました．使い方や仕入れ値から見ても，レーズン等のドライフルーツの代替品として考える傾向があるということがわかりました．商品の品質以外には，地域活性化につながる商品であり，地域を生かすコンセプトが良いという意見が多かったです．

これらのことから乾燥さくらんぼは今の段階では安く誰にでも使いやすい食材ではないものの，食材としての使用方法が分かれば調理の可能性が広がり，地域のPRにも有効な商品であるということが分かったと指摘している（秋田県立湯沢翔北高等学校商業クラブ，2014）．

Akita University

さらに，翔北生は，2015年２月14・15日に湯沢市で開催された「犬っこ祭り」に出店し，商業クラブと総合ビジネス科の生徒による販売実習を行なっている．そこでは，「大判焼き」の「餡」として，一般的な餡子ではなく，カスタード＆ミッチェリー（乾燥さくらんぼ），キャラメルピーナッツ，お好み焼き風味の３種類の味にして地域住民に提供し，好評を得ると共に，乾燥さくらんぼの活用の紹介ともなった．その後，乾燥さくらんぼは，大判焼きやたい焼きの材料として使われるだけでなく，お菓子作り用に購入していく人も多くなってきている．

⑶　取り組みの分析

翔北生は，湯沢地区を魅力的にするという課題を設定し，その課題を解決していくために「乾燥さくらんぼ」の商品開発をした．さらに，商品開発にとどまらず，多くの人たちにその魅力を発信し，販路の拡大をも試みている．その過程でサンプルを配ったほか，アンケート調査を実施することで，その都度商品に工夫を加えてきた．

こうした一連の取り組みについて，クリックの提案するシティズンシップ教育目標，①社会的道徳的責任，②地域コミュニティへの参加，③政治的リテラシーの三つの視点から分析をする．

①の社会的・道徳的責任についてであるが，翔北生は，商業クラブの活動や地域住民との相互交流を通じて，湯沢市の将来を担う市民の一員としての自覚や責任感をもって，活性化に取り組んでいる姿が見られた．翔北生が乾燥さくらんぼを試行錯誤しながら開発させたことは，湯沢市を活性化させようとする自覚を翔北生１人１人が持っていたからではないだろうか．このことから，①の目標は達成したと考えられる．

また，翔北生は今回の乾燥さくらんぼの商品開発に関して，教師や行政などからの呼びかけに応じて，受動的に活動するだけではなく，取り組む活動の意義や目的等を自分たちなりに考え，理解した上で主体的に活動を行っていた．こうした点からいえば，②の目標も達成したと考えられる．

さらに，翔北生は，人口減少等によって，地域の力が低下していることに問題意識を持っていること，さらに，問題を解決するための方途を仲間や地域住民，商業クラブ顧問と協力しながら探り，乾燥さくらんぼの商品開発という形で，湯沢市の活性化に具体的に貢献している．これはクリックの言う③の目標も一定程度達成したと考えられる．この乾燥さくらんぼが湯沢市の活性化に影響を与えているということを，翔北生は目に見える形で実感していることから，生徒自身も市民としての成長を経験できたのではないだろうか．

今回，湯沢翔北高校で取り組まれた乾燥さくらんぼの商品開発等の体験活動の意義は，自分たちが住んでいる町を活性化していくことに取り組む中で，翔北生がシティズンシップを獲得していったことにある．湯沢市は少子化や人口流出等の様々な課題があるが，翔北生が様々な体験活動を通して学び，獲得されたシティズンシップを湯沢市の将来に生かしていければ，地域の力の回復につなげることができるのではないだろうか．

Ⅳ　結論と課題

本稿では，体験活動を重視し，特徴的な地域貢献活動を行っている秋田西高校と湯沢翔北高校の２校の活動を取り上げ，その活動の持つシティズンシップ教育としての意義を検討してきた．

秋田西高校では，様々な体験活動を通して地域住民と信頼関係を構築し，その上で地域貢献に取り組んでいた．特に課外活動を通して交流を深めたことや地域の活動に参加し，地域の特性を活かした様々な活動が行われていることが明らかになった．その具体的な事例として，西高生の自転車マナーが悪いという地域の住民の声をもとに，マナーの向上に取り組むだけでなく，積極的に地域との様々な連携を模索し，その一つの成果が追分地区防犯・交通安全マップの作成として結実していた．

このような努力が実を結び，秋田西高校は，地域の方からマナーが以前より良くなっていることを評価されるようになる．西高生はこの経験を通して，クリックが考えるシティズンシップを身に付けたと言える．

今回は生徒会による追分地区防犯・安全マップの制作に焦点を当てたが，秋田西高校はボランティア活動やインターンシップも積極的に進めている．

ボランティア活動は，社会貢献や社会参加等に関する活動を通して，社会の一員であるということの自覚を深め，社会の中でともに生きる豊かな人間性を養うと共に，自分を見つめ直し自己実現に向かって，自発的に行動しようとする意識を培うことを目的として，進学を希望する高校２年生を対象に，実

Akita University

施されている．

インターンシップは，就職を希望する高校２年生が，在学中に企業等での就業体験を行うことにより，働くことの意義や，職業に就いて自立することの大切さ，働くことの厳しさなど，職業に関する理解を深め，自己の将来の在り方，生き方について考えさせ，主体的に職業選択できる能力の育成を目的としている．生徒はこれらの活動から学んだこととして，コミュニケーション能力や礼儀，人間関係を挙げており，これらのどれもがシティズンシップを育む上で必要なことだと思われる．

秋田西高校の校長が主権者教育・シティズンシップ教育の重要性を2015年度の地域懇談会で指摘していたように，秋田西高校がこのような活動を行うことで生徒の学びを促している点は高く評価できる．インターンシップやボランティア活動等を通じて地域住民と関わりながら，生徒自身に変容が生じている秋田西高校の教育活動は，意義があると言える．

湯沢翔北高校の取り組みについては，商業クラブで行われている乾燥さくらんぼの商品開発に焦点を当てて説明した．湯沢翔北高校が設定しているキャリア教育指導目標は「他者や社会と積極的に関わる体験を通して，自分を生かし主体的に生きていく力と持続可能な社会の担い手となる市民性を育てる」ことであるが，翔北生はこの指導目標のもとで，仲間や地域住民と協力しながらその都度工夫を凝らして地熱を利用した乾燥サクランボを開発させた．

彼らの生産した乾燥さくらんぼは2014年度より販売されているが，乾燥さくらんぼを使った商品開発はまだ継続中である．湯沢市を代表する特産品を生み出すことで，県内のみならず県外の人に湯沢市の良さを知ってもらうきっかけになることから，これからも試行錯誤しながら幅広い乾燥さくらんぼの調理法や活用法を考えていくことは，直接的には，湯沢市の地域活性化に向けた商品開発につながっていくだろう．しかし，より意義があると思われるのは，こうした活動を通じて生徒が，社会とのつながりを意識し，社会へ積極的に関わっていこうとする姿勢である．こうした姿勢は，シティズンシップの目指すところでもあり，また，将来にわたって永くその意義が続いていくものにもなるだろう．

文部科学省（2006）は，開かれた学校づくりに関して，地域に開かれ信頼される学校を実現するため，学校には，保護者や地域住民の意見や要望を的確に反映させ，家庭や地域社会と連携協力していくことが求められていると述べている．同時に，学校評価を通じて学校は，自律的・継続的に教育活動の改善を行うと共に，開かれた学校として保護者や地域住民に対して説明責任を果たし，また，学校設置者等による支援や条件整備等の改善を通じて，教育の質の保証・向上を図ることが期待されているとも述べている．

学校が保護者や地域住民と連携しながら教育の質を向上させていくことは，主体的な生徒の学びを通して生徒の成長を促し，望ましい方向へ変容させていくために重要なことである．ただし，ここで留意しなければならないのは開かれた学校づくりの実践が，保護者や地域住民からの学校評価を上げるためだけに行われてはいけないということである．現在，学校においては，生徒の「生きる力」を育み，地域の担い手になるように日々の教育活動をしており，生徒の成長の視点から開かれた学校づくりを捉えていくことが，ますます重要になっている．生徒の成長の視点から開かれた学校づくりをより一層進めていくためには，学校が体験活動や地域懇談会等の様々な学習の場を生徒に提供し，生徒自身がそこから主体的に学んでいけるように援助していくことが重要ではないだろうか．時には失敗もあるだろうが，周りの大人たちがそれを否定的に捉えるのではなく，生徒の成長の過程として捉え，温かい目で見守っていくことも必要であろう．

シティズンシップ教育には，様々な定義があり一つにまとめることは難しい上に，地域や国家の課題に応じてその指導内容や指導方法も異なってくる．しかし，どのような指導内容，指導方法であっても，生徒が自ら主体的にその問題に向き合い，他者と協力してその解決の糸口を探るということがシティズンシップ教育の趣旨であることに変わりはなく，そこでは生徒が学びの主体であることが不可欠である．だからこそ，教師や地域住民や保護者等，様々な背景を持っている大人が生徒に関わり，様々な視点から生徒自身の気づきを促していくことが，開かれた学校づくりの重要な意義ではないだろうか．

秋田西高校と湯沢翔北高校の生徒会・クラブ活動を通して，生徒は，クリックがシティズンシップ教育目標として考えている，①社会的道徳的責任，②地域コミュニティへの参加，③政治的リテラシーの三つの観点において，市民として成長したと言える．

Akita University

しかし，今回の対象は，生徒会やクラブ活動に熱心に取り組んでいる一部の生徒が中心であった．そのため，今回取り上げた取り組みの成果を，学校全体の教育活動の中でのシティズンシップ教育の意義や成果にそのまま還元することは難しいだろう．

また，今回とり上げたような活動に積極的に取り組む生徒は，もともと主体性を持ち，社会への関心も高い生徒でもある．それゆえ，取り組みによってシティズンシップが獲得されたとはいえ，その成果による部分はそれほど大きくはない可能性もある．

こうした点については今後の課題とし，他日を期して取り組みたい．

謝辞

本研究を進めるにあたりご協力いただいた秋田県立秋田西高等学校，秋田県立湯沢翔北高等学校の先生方，生徒の皆様に心より感謝申し上げます．

参考文献

Crick, Bernard R.（関口正司監訳）(2011)『シティズンシップ教育論: 政治哲学と市民』（原著2000），法政大学出版局

秋田西高校　中期ビジョン http://www.akitanishi-h.akita-pref.ed.jp/bijon2.pdf（2016年１月６日参照）

秋田西高校生徒会執行部資料（2015）『平成27年度生徒会目標』

秋田県立秋田西高等学校PTA事務局（2015）『西高PTA会報』87号

秋田県湯沢翔北高校　教育目標・教育方針 http://www.shouhoku-h.akita-pref.ed.jp/cgi-bin/index.cgi?sm=introduce&tp=introduce_policy（2016年１月６日参照）

秋田県湯沢翔北高等学校（2014）『平成26年度キャリア教育全体計画Project Trinity』

秋田県立湯沢翔北高等学校　商業クラブ（2014）『第18回東北六県高等学校生徒商業研究発表大会研究報告書』

岩本　悠（2014）「地域と協働した高校改革――島根・隠岐の試み」，『教育』，12月号，pp.28~35

経済産業省 2006年『シティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会報告書』www.akaruisenkyo.or.jp/wp/wp-content/.../hokokusho.pdf（2016年１月６日参照）

平田　淳（2008）『「学校協議会」の教育効果に関する研究―「開かれた学校づくり」のエスノグラフィー』，東信堂

宮下与兵衛（2013）「生徒参加の学校づくりと特別権力関係論」，『教育』，11月号，pp.58～66

文部科学省（2006）『平成19年度文部科学白書』http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200701/index.htm（2016年１月６日参照）

文部科学省（2013）『コミュニティ・スクールと学校支援地域本部について』www.mext.go.jp/b_menu/shingi/.../1338051_04.pdf（2016年１月６日参照）

文部科学省（2015）『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）』http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/01/05/1365791_1.pdf（2016年１月６日参照）

Summary

The purpose of this paper is to clarify the significance of the citizenship education in term of schools open to the community. The citizenship education is introduced by school education to let the students play a role as a citizen in the future. For example, the activity such as a volunteer job is included in it.

This time, the author focused on the students who joined the student council or the club activity in Akita Nishi high school and Yuzawa Shouhoku high school and surveyed what they learned from the student council or the club activity. The students acquired the ability needed as a society member such as communication skill, problem solving powers, responsibility.

Key Words：Schools Open to the Community, Citizenship Education, Student Council, Club Activity

（Received January 8, 2016）